

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教育相談の理論と方法（A・B・C）
教員名（専門分野）	平野 直己（臨床心理学、精神分析学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 200名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教育相談とは 3. 教えるアプローチ 4. もうひとつのアプローチ：教わるアプローチ（カウンセリング） 5. カウンセリングの発想 6. カウンセリングの方法（1） 7. カウンセリングの方法（2） 8. カウンセリングの方法（3） 9. 発達と教育相談 10. 不登校の歴史と理解の変遷 11. 不登校を理解する3つの視点 12. 関係性アプローチの発想と実際 <u>13. いじめ問題の経過と定義</u> <u>14. いじめの構造と方法</u> <u>15. いじめの予防・対応に向けて</u>

【授業内容】

(13 : いじめ問題の経過と定義)

いじめ問題の歴史と文科省の定義と統計の推移

いじめに関する調査結果を示し、私たちはいじめのことをどれだけわかっているかと問う。

(14 : いじめの構造と方法)

実践現場でのいじめの定義について、いじめの4層構造論の解説と応用例と実践利用上の留意事項、いじめのプロセス（手口）の解説

(15 : いじめの予防・対応に向けて)

いじめの予防と対応の観点についての解説、心理教育的アプローチについての紹介、中学生対象のいじめ講話を示し、講話に対する生徒たちからの質問にどのように答えるかを課題として提示。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	社会心理学
教員名（専門分野）	戸田 弘二（社会心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教育の基礎理論に関する科目 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）
単位数・受講者数	2単位 ・ 30名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2～4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1週 ガイダンス：社会心理学とは</p> <p>第2週 自己(1)：自己注目と自己把握</p> <p>第3週 自己(2)：自己評価と自己表出</p> <p>第4週 対人認知(1)：印象形成と対人認知を歪める要因</p> <p>第5週 対人認知(2)：対人情報処理過程</p> <p>第6週 <u>帰属(1)：帰属研究</u></p> <p>第7週 帰属(2)：帰属バイアス</p> <p>第8週 帰属(3)：帰属的研究</p> <p>第9週 態度(1)：態度と態度変容の理論</p> <p>第10週 態度(2)：説得的コミュニケーション</p> <p>第11週 対人関係(1)：対人魅力の規定要因</p> <p>第12週 対人関係(2)：親密化過程</p> <p>第13週 対人関係(3)：恋愛と親密な関係の崩壊</p> <p>第14週 集団(1)：集団と個人</p> <p>第15週 集団(2)：集団の影響過程</p>

【授業内容】

(第6回 帰属(1) : 帰属研究)

帰属理論の回に、ケリーの ANOVA モデルの具体例として、みんなが、継続して、特定の一人をいじめていると、いじめの原因がなんであれ、いじめられている側にも原因があるように見えてしまう、という話をしています。また、上記の話をする前に、ANOVA モデルに基づいた2種類のいじめ事例を提示し、それぞれの場面での責任帰属をさせることで、ANOVA モデルによる推論を体験させるというワークを取り入れています。ケリーの理論を解説するのが目的ですから、いじめの話とワークは正味 30 分程度です。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	精神保健
教員名（専門分野）	扇子 幸一（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	養護に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 40名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1週 オリエンテーション・神経症的症状形成</p> <p>第2週 睡眠の問題</p> <p>第3週 排泄の問題</p> <p>第4週 チック・習癖・行動上の問題</p> <p>第5週 養育行動の問題</p> <p>第6週 育児不安・育児ノイローゼ・虐待</p> <p>第7週 母になれなかった少女</p> <p>第8週 被害者から加害者へ</p> <p>第9週 不登校</p> <p>第10週 引きこもり</p> <p><u>第11週 いじめ</u></p> <p>第12週 非行</p> <p>第13週 神経症</p> <p>第14週 精神病</p> <p>第15週 人格障害</p>

【授業内容】

（第11週：いじめ）

1 コマ。まず、東京中野区富士見中学校、愛知県西尾市東部中学校、滝川江部乙小および福岡県筑前町三輪中学校といった、マスコミ報道が過熱しいじめ（報道）の歴史を取り上げ、報道と実際の間を考えた。次いで、報道の影響を踏まえた上で、校内暴力の管理的解決やピアプレッシャーといった学校に囲い込まれた子どもたちの状況について考えた。さらに共感性の発達、特にその阻害と遅れという視点で、加害者、周辺層の理解を促した。また被害者の個性や心理を検討し、教師を始め周囲が気づきにくい理由についても考えた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教職論
教員名（専門分野）	阿部 二郎（教育学, 教科教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の意義等に関する科目 ・教師の意義及び教育の役割
単位数・受講者数	2単位 ・ 90名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 1～3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 OR（各種受講に際しての諸注意）、教員免許取得の方法。 2 教員と法律の関わり。教職と関連する各種の法律。義務教育とは、学校給食、教職と心理学 3 「観」の形成、発達段階、正統的周辺参加、給特法、保護者の問題と不適格教員と勤務条件、小児性愛者、教師と生徒の恋愛問題。 4 人権法、教員の労働実態、懲戒と分限、PTA活動 地方公務員法、児童福祉法、青少年健全育成条例と教員の犯罪。 5 教職における洞察の重要性、教員に対する社会要求の数々、教員の最大の使命とは、体罰が禁じられる理由。 6 リスクマネジメント、守秘義務の事例、地方公務員法第6節、児童虐待の防止などに関する法律、教員の研修権。 7 体罰と懲戒、教員の本能的常識の感覚とは何か。 8 児童虐待の実情と児童虐待防止法、子どもの権利条約。中間テスト=中間判定テスト。 9 教職における基礎知識 1 10 職業適性検査「キャリア・アプローチ」 11 <u>いじめ問題と対応の手順・通達、教員モラル問題、教職における基礎知識 2</u> 12 コメニウスからヘルバルト学派まで。「個を生かす」という意味、へき地教育と複式教育。 13 教員免許法と各種免許。学習指導要領と指導要録と通知表、教育評価方法と概念。 14 教員の職員団体と各種制約、教職における基礎知識 3。 15 総括的筆記試験。

【授業内容】

(11：いじめ問題と対応の手順・通達、教員モラル問題、教職における基礎知識)

講義開始冒頭から、教員の使命の第一は「児童・生徒の生命保全にある」ということは繰り返し述べている。それ故に、体罰の禁止や自然災害対策・安全環境の構築の必要性、ペドフィリア、エホボフィリアの教職から排除の必要性、虐めによる自殺防止の必要性に言及している。具体的には、児童虐待、人権問題と児童福祉法、学校保健安全法との関わりから、虐め現象を看過してはならないこと。文科省からの各種「いじめ」「自殺」に関する通達があり、事後対応の手順が構築されつつあるので、それを厳守すべき必要性があること。講義期間での各種自殺、いじめの報道記事は逐次紹介し、対策の必要性（リスクマネジメント、クライシスマネジメント）についての意識を喚起すべきだということについては、逐次啓発している。

(いじめに関する内容は、15回の講義全体の中でトータル時間にして1回分程度に相当する。)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法
教員名（専門分野）	松田 賢治（学校経営, 生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 前期100名・後期100名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3, 4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業及び生徒指導・進路指導の概要について） 2 生徒指導・進路指導の課題・現状（生徒指導・進路指導の課題等の理解） 3 <u>生徒指導の意義（生徒指導のねらい、意義について）</u> 4 生徒指導と教育課程（生徒指導と教育課程の関連について） 5・6 積極的な生徒指導（日常の学校生活における生徒指導の取組について） 7・8 <u>生徒指導上の諸問題への対応（いじめや不登校等の生徒指導上の課題への対応について）</u> 9 <u>生徒指導にかかわる今日的な課題への対応（PC・携帯電話の利用等にかかわる新たな課題について）</u> 10 学校における生徒指導体制・教師の姿勢（組織的な生徒指導、教員の基本姿勢について） 11 進路指導と生徒指導（進路指導のねらい・意義、生徒指導との関連について） 12・13 進路指導の実際（学級における指導、学校の取組等について） 14 進路指導とキャリア教育（キャリア教育の基本的な考え方、進路指導との関連等について） 15 学校・家庭・地域・関係機関の連携（生徒指導・進路指導における連携について） 16 授業のまとめと期末試験（授業の振り返りとまとめ、期末試験）

【授業内容】

『生徒指導上の諸問題への対応』

生徒指導にかかわる諸問題の現状、発生の背景を説明するとともに、いじめなどの問題行動の事例を取り上げ、事例演習として対応策について協議を行っている。

(いじめに関する事例演習、諸問題発生データ紹介等、トータルで3コマ)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教育の基本問題（教養科目）
教員名（専門分野）	木村 育恵（教育社会学）、羽根田 秀実（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2 単 位 ・ 7 1 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 1～4 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>《木村（育）担当》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakシヨン—本講義の焦点 2 教育問題の社会学（1）教育「問題」を捉えるということ 3 教育問題の社会学（2）学力低下論争 4 教育問題の社会学（3）「学力低下」論争の問題点 <u>5 教育問題の社会学（4）いじめ問題を読み解く</u> 6 教育問題の社会学（5）子どもを取り巻く現代的状況 7 教育「問題」を捉えるということ——まとめ <p>.....</p> <p>《羽根田担当》</p> <p>●講義題目「記号としての授業理論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 記号論の基礎Ⅰ（整合性について） 9 記号論の基礎Ⅱ（コード・解釈規則について） 10 「知識を与える」ということをめぐって 11 「知識」の構造 12 「知識」無用論 13 知識の系統性 14 記号活動としての学習・授業 15 授業観・人間観

【授業内容】

(第5回：いじめ問題を読み解く)

「いじめ」という教育言説をめぐる多角的検討。特に、心理主義的にいじめに対応しようとするものの問題点。(いじめの現状は、トータル1コマ程度)

【授業内容】

(第13週 ネットいじめとネット犯行予告)

ネットいじめについて、いくつかの事例を示しながら、インターネット匿名性と子どもの社会性の関係から、ネットいじめが起こる過程を解説し、その多様性と複雑性を説明する。さらに、発見の難しさ、被害者と加害者に対する指導の難しさについても説明する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	情報モラル教育論
教員名（専門分野）	村田 育也（科学教育, 教育工学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教科または教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 6名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>(1) 情報モラル教育の必要性</p> <p>第1週 情報モラルとは</p> <p>第2週 子どものネット利用の現状</p> <p>第3週 子どもの年齢と責任能力</p> <p>(2) 情報モラル教育内容</p> <p>第4週 カリキュラム</p> <p>第5週 情報の大切さ</p> <p>第6週 情報の正しさ</p> <p>第7週 <u>思いやりと信頼</u></p> <p>第8週 ネット犯罪と償い</p> <p>(3) 情報モラル教育方法</p> <p>第9週 授業計画・実践・評価</p> <p>第10週 独立授業での指導法</p> <p>第11週 教科教育内での指導法</p> <p>(4) トラブルの事後指導</p> <p>第12週 <u>事実の把握</u></p> <p>第13週 <u>子どものための指導</u></p> <p>(5) 家庭との連携</p> <p>第14週 予防対策</p> <p>第15週 トラブル対処</p>

【授業内容】

(第7週 思いやりと信頼)

ネットいじめなどのネット上のコミュニケーショントラブルの予防のために必要な情報モラル教育の内容として、インターネットを使う場合にも日常と同様に思いやりと信頼が大切であることを示し、その指導方法について解説する。

(第12週 事実の把握)

ネット上のトラブルの1つとして、ネットいじめを扱う。ネットいじめの発見の困難さとその原因を把握した上で、どのように発見し、その事実を把握することが可能かについて講義する。

(第13週 子どものための指導)

ネットいじめなどのトラブルが生じた場合、事後指導として、加害者と被害者に対する指導と支援が必要になる。ネットいじめは多様で複雑なため、当事者や周囲の子どもに配慮しながらケースバイケースに指導する必要があることを解説する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法
教員名（専門分野）	高橋 亜希子（臨床教育学, 教育方法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 104名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回 インTRODakション</p> <p>第2回 現在の学校 指導困難を抱える教師の姿</p> <p>第3回 思春期の発達の背景 ①</p> <p>第4回 思春期の発達の背景 ②</p> <p>第5回 学校場面での支援のあり方 ② “浦和商业”定時制高校での自分作り I</p> <p>第6回 学校場面での支援のあり方 ③ “浦和商业”定時制高校での自分作り II</p> <p>第7回 ニート・フリーターの現状 ① ニートはわがまま? 都立高校での現状</p> <p>第8回 ニート・フリーターの現状 ② 90年代からの経済構造の変化</p> <p>第9回 ニート・フリーターの現状 ③ 引きこもりからの脱出</p> <p>第10回 ニート・フリーターの現状 ④ 働くことの喜びとは</p> <p>第11回 保護者の無理難題要求</p> <p>第12回 生徒指導に関するトピック ① スクールカウンセリング</p> <p>第13回 生徒指導に関するトピック ② 教師の多忙化</p> <p><u>第14回 生徒指導に関するトピック ③ いじめ</u></p> <p>第15回 まとめ</p>

【授業内容】

(第 14 回：生徒指導に関するトピック ③ いじめ)

「生徒指導」は「教科指導」「進路指導」と並ぶ教師の役割の一つであり、生徒の人格発達を支える大切な関わりである。日本の伝統的な生徒を「抱える」生徒指導は、子どもや家庭環境の変化、また急速な教育改革の進行により、困難になっている。

中学・高校にあたる思春期は、対人関係や役割を引き受けることで、社会性や自主性を伸ばしていく大切な時期である。学校は、学級や授業、教師の指導を通して生徒の成長の機会を提供している場である。そのような学校場面における生徒の自我発達支援の事例（教師・授業実践など）を取り上げ、思春期における生徒指導のあり方に関する理解を深める。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教育の制度と社会
教員名（専門分野）	須田 康之（教育学, 教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の基礎理念に関する科目 ・教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 121名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3～4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>I 社会化とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自我の形成と変容 2. 家族と社会化 3. 教育という営為の特性 <p>II 学校という社会</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 学校の再発見 5. 教室における指導と学習 6. 教育内容とカリキュラム 7. 教師という職業とその専門職性 <u>8. 学校の機能障害とその回復</u> 9. 社会組織としての学校 <p>III 教育の制度化</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 教育と近代化の過程 11. 学校体系と教育機会の均等 12. 教育と選抜 <p>IV 教育と社会の変容</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大学と青年 14. メディア社会の教育 15. 教育の拡大と社会変動

【授業内容】

(8 : 学校の機能障害とその回復)

(1) 社会の中における学校の位置づけの変化

- 1) 学校内で問題が起きるようになった背景
- 2) 学校の位置づけの変化
- 3) 情報化社会の中での学校の役割

(2) 教育問題の諸相

- 1) 暴力行為
- 2) いじめ
 - 1)) 現状
 - 2)) いじめの四層構造 (森田洋司)
 - 3)) なぜいじめは起きるのか～攻撃誘発性といじめる側の心理 (竹川郁雄)
 - 4)) 集団の均質性と所属の強制力 (荻谷剛彦)

(3) 不登校

(4) 学級崩壊

「いじめ」の現状について、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)で押さえ、学級内でのいじめの構造、なぜいじめは起きるのか、これをいじめ許容空間の成立、攻撃誘発性といじめる側の心理から解説すると共に、異質性の排除の要因を集団の均質性と所属の強制力という2要因から検討している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教育の基礎と理念
教員名（専門分野）	二井 仁美（教育史）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の基礎理念に関する科目 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
単位数・受講者数	2単位 ・ 270名（3クラス）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教育とはどうあるべきか？ 3. 教育基本法と教育勅語 4. 近世における教育目標 「一人前」 5. 近代学校制度の発足 「立身出世」 6. 教育政策の方向転換 7. 義務教育制度と就学義務猶予免除 8. 学校から排除された子どもの教育 9. 教育を受ける権利と児童虐待 10. 新教育運動 子ども中心主義と学校 11. 子どもとはどういう存在か？ 生活と教育を巡って 12. 戦後教育改革 <u>13. 戦後における教育の歴史</u> 14. 教育の現在 15. 総括

【授業内容】

（第 13 回：戦後における教育の歴史）」

戦後における教育の歴史に関する単元において、学校での様々な教育問題に焦点をあて、いじめの問題とそれに対する教師の取り組みについて取り上げている。

そこでは、不登校やいじめによる自殺、いじめ問題に対する政策について、概括的に解説したうえで、1980 年代の小学校におけるいじめに対する教師の実践記録を紹介しながら、様々な教育問題に対する学校および教師の取り組みに論究している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	教育の制度と社会
教員名（専門分野）	玉井 康之（教育学, 教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の基礎理念に関する科目 ・教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 180名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1週（講義）ガイダンス</p> <p>第2週（講義）<u>いじめの構造をどう把握するか</u></p> <p>第3週（講義）<u>いじめの対応・予防をどう進めるか（ロールプレイを含む）</u></p> <p>第4週（講義）<u>子どもを取り巻く教育環境づくりと学級環境作りをどう進めていくか</u></p> <p>第5週（講義）子どもの地域環境・遊び環境の変化と情報化社会の中で失われたもの</p> <p>第6週（講義）子どもの認識・学力を狭める社会環境の中で、学力をいかに高めるか</p> <p>第7週（講義）遊びの変化と影響</p> <p>第8週（講義）学級崩壊現象の中での教職リーダーシップを高めるために</p> <p>第9週（講義）教師集団の人間関係をどのように築いていくか</p> <p>第10週（講義）子どもの集団づくりとコミュニケーションづくり</p> <p>第11週（講義）へき地校の教育実践</p> <p>第12週（講義）子どもたちの実態を統計的にどのように捉えるか</p> <p>第13週（講義）地域調べ学習・地域体験学習をどのように進めるか</p> <p>第14週（講義）学級活動を高めるために</p> <p>第15週（講義）まとめ</p>

【授業内容】

いじめの実態と対応方法を2回に分けて講義している。いじめだけを取り出して対応してもいじめをなくすことはできないので、他の講義では、学級経営論として展開している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	学校経営と学級経営
教員名（専門分野）	廣田 健（教育学, 新領域法学,）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の基礎理念に関する科目 ・教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 42名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2～4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1 ガイダンス（第1回）</p> <p>(1) 授業の目的・進め方</p> <p>(2) 受講者の現状及び関心の調査</p> <p>2 現代における学校経営・学級経営の意義と原則（第2回～第6回）</p> <p>(1) 教育基本権と学校経営・学級経営</p> <p>(2) 教育行政と学校経営・学級経営</p> <p><u>(3) 子どもの権利と学校経営・学級経営</u></p> <p>(4) 教育基本法の改正と学校経営・学級経営</p> <p>3 学校経営の現代的課題（第7回～第11回）</p> <p>(1) 教職員と学校経営</p> <p>(2) 地域と学校経営</p> <p>4 学級経営の現代的課題（第12回～第14回）</p> <p><u>(1) 学級経営の意義と原則</u></p> <p><u>(2) ケースワーク</u></p> <p>5 まとめとテスト（第15回）</p> <p>※ 受講者の理解度並びに問題意識及び教育改革の状況に応じて授業を進めるため、上記に挙げる授業計画には必ずしもこだわらない。授業計画の区分は必ずしも授業進行の順序ではなく、講義中にふれる項目として考えて欲しい。</p>

【授業内容】

(第6回：子どもの権利と学級経営)

- 子どもの権利条約に関わり、国連子どもの権利委員会の勧告（最終所見）に触れながら、勧告の指摘する子どもの発達の全面性に反する日本の競争的教育の状況（教師に対する管理主義的統制に対する批判を含む）及び格差拡大の問題と結びつけ、ストレスフルな状況の中で増え続けるいじめについて、及びオルタナティブとしての親和的・主体的状況の中での子どもの育ちの重要性について問題提起を行った。
- 学生には、上記の問題提起に係わって若干の討論をしてもらった。

(第10回及びエクステンション授業（予定）)

- いじめ問題についての議論が高まっている関係で、正規の回数の中では1回と、エクステンション授業（ケースワークなど）で取り上げる予定である。
- 第10回「学校経営の意義と原則」では、いじめの四層構造を中心に解説する中で、学級経営における学級集団の質についての議論をしていきたいと考えている。
- 第11回以降の実地指導講師については、講師のこれまでの体験などからいじめ問題についてのケースワークを行ってもらおう予定である。
- エクステンション授業（一部既に実施している）では、いじめ問題を取り上げた雑誌論文（特に大津のいじめ事件をめぐる）や報道・調査資料を提示して、班毎（この授業は参加型の授業形態を取っているので事前に班分けしてある）に意見をまとめ、プレゼンテーション。教員がこれにコメントする形をとっている。

※ いじめ問題が大きく取り上げられたので、最初のシラバスを大きく代えて、後半は必ずしも予定通りに勧めるのではなく、いじめ問題に傾斜したプログラムに代えているところです。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（弘前大学・教育学部）

授業科目名	教員養成総合実践演習Ⅱ
教員名（専門分野）	教育実践総合センター教職実践演習部門
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科または教職に関する科目 （H25年度「教職実践演習」の一科目として実施）
単位数・受講者数	2単位 ・ 54名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 オリエンテーション・追究課題の決定</p> <p>第2・3回 キャリア教育</p> <p>第4・5回 <u>いじめ・不登校への対応</u></p> <p>第6・7回 通常学級における特別支援教育</p> <p>第8・9回 身近な教育法規と組織協働</p> <p>第10・11回 学級経営</p> <p>第12回 追究課題発表準備</p> <p>第13・14回 追究課題発表</p> <p>第15回 自己課題の明確化</p>

【授業内容】

第4・5回 いじめ・不登校への対応

【実施指導講師】 青森県総合学校教育センター 指導主事 齋藤美鈴

1 いじめって

- (1) いじめの未然防止
- (2) いじめのしくみ
- (3) いじめの解決に向けて

2 いじめ問題の事例検討

*インシデントプロセスにもとづき、講師との質疑応答とグループ討議により、下記の事項を検討していく。

- (1) 事例についての質問
- (2) 問題点の検討
- (3) 対応策の検討
- (4) まとめ

3 不登校って

- (1) 不登校の理解
- (2) 不登校の対応
- (3) 不登校の未然防止

4 全体のまとめ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（弘前大学・教育学部）

授業科目名	健康相談活動の理論と方法
教員名（専門分野）	小林 央美（養護学） 田中 勝則（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	養護に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 25名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 健康相談活動の定義，健康相談活動に関する名称の変遷とその背景</p> <p>第2回 「健康相談活動」の科目誕生の背景と子どもの健康課題</p> <p>第3回 健康相談活動と養護実践～事例から健康相談活動の特徴を探る～</p> <p>第4回 健康相談活動の定義の理解～養護教諭の職務の特質～</p> <p>第5回 健康相談活動の定義の理解～保健室の機能を生かす～</p> <p>第6回 健康相談活動の定義の理解～心と体の両面・カウンセリング能力・連携～</p> <p>第7回 健康相談活動の過程～初期対応～</p> <p>第8回 健康相談活動の過程～継続対応～</p> <p>第9回 事例検討～インシデント・プロセス～</p> <p>第10回 事例検討（保健室登校）～情報収集と予測～</p> <p>第11回 事例検討（保健室登校）～課題の明確化と対応～</p> <p><u>第12回 事例検討（いじめと不登校）～情報収集と予測～</u></p> <p><u>第13回 事例検討（いじめと不登校）～課題の明確化と対応～</u></p> <p>第14回 事例検討（発達に課題を有する事例～</p> <p>第15回 事例検討と記録、評価</p> <p>第16回 期末試験</p>

【授業内容】

(第12回：いじめと不登校)

いじめにより、不登校になった事例を活用し、その解決に向けた情報収集とそれによる解決のための予測について、グループ討議（インシデント・プロセス法の援用）で追究する。

(第13回：いじめと不登校)

いじめにより、不登校になった事例を活用し、その解決に向けた課題の明確化とその対応についてグループ討議（インシデント・プロセス法の援用）で追究する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（弘前大学・教育学部）

授業科目名	いじめと学級づくり
教員名（専門分野）	大谷 良光（技術教育・生活指導）、齋藤 厚（教員養成・生活指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他 （教養教育科目）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 52名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生以上対象
授業計画 ※全単元がいじめに関するものです。	<p>第1回(4/12) ガイダンス、いじめとは何か</p> <p>第2回(4/19) いじめ問題</p> <p>第3回(4/26) 子どもの発達段階と対応 実践</p> <p>第4回(5/10) いじめている子どもへのメッセージを読む・書く</p> <p>第5回(5/17) いじめられている子どもへのメッセージを読む・書く</p> <p>第6回(5/24) 生活指導の今日的課題・ドラマで学ぶ①</p> <p>第7回(5/30) 生活指導の方法的原則・ドラマで学ぶ②</p> <p>第8回(6/7) いじめを出さないための学級集団づくり PART I 班づくり</p> <p>第9回(6/14) いじめに立ち向かう学級集団づくり PART II リーダーづくり</p> <p>第10回(6/21) いじめを乗り越える学級集団づくり PART III 討議づくり</p> <p>第11回(6/28) 競争する学びから共同する学びへ ロールプレイ実践</p> <p>第12回(7/5) 学級集団分析の方法 ・QU・がばいシート ・学級地図</p> <p>第13回(7/12) ネットいじめの実際と未然防止</p> <p>第14回(7/19) いじめ体験記の検討</p> <p>第15回(7/26) いじめと学級集団づくりについての「まとめ」討論会</p>

【授業内容】

I. 授業の目的

現代的教育問題、人と人との関わりの焦眉の課題である「学校でのいじめ」を、いじめの実態・発生要因・社会的背景、いじめ克服の事例研究、公的機関発表のいじめ対策の検討、いじめを生じさせない土壌を養成する学級づくり・生活指導について、事例研究を中心に学びあう。その中で、人間のこれからのあり方を展望する。

II. 授業の目標

- ◎学校でのいじめの実際を理解することができる。
- ◎実践記録を読み解き、分析し合い、学びとることができる。
- ◎いじめを許さない土壌を養成する学級集団づくりの理念と方法を理解する。
- ◎課題をグループで討議して深めるコミュニケーション能力を高めることができる

III. 授業の形式・形態および方法 = グループ討論等 演習型

1. 実践分析的学び…実践レポートを

- ・読み（順番読み）
- ・班で話し合う（疑問点、実践的に評価できる点、出来ない点、今後の展望等）
- ・全体で班の発表について討論し、学びとる

2. 演習的学び…ワークショップ（班で対策など、実践構想を描く）

- ・第三者に当ててメッセージを書く
- ・構成的グループエンカウンターや集団遊びなどを実践的に学ぶ

3. 講義的学び…いじめの背景や実態を知る（講義）

- ・いじめについて考える（映画・手記・）
- ・対策について知る（論文、実践記録）
- ・学級集団づくりについて知る（講義）

4. 自己分析的学び…可能な範囲での、それぞれの体験を交流しあい学ぶ

IV. 出席確認 = 班カードへの記録による

V. 評価

- ①意欲的に課題に立ち向かっているか。
- ②自らの考えを持つように努力し、討議に参加しているか。
- ③小論文と発表 3つの基準を総合的に判断して評定する。

※ たくさん聞いて、たくさん話して、積極的に意見交換をして学び合いましょう。

※ 協力して構想を練ったり、対策を考えたり、良き人間関係を創り学び合いましょう。

※ 学級集団づくりの原則や具体的手法について学び合いましょう。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	教育相談論
教員名（専門分野）	藤井 義久（学校心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 140名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：学校における教育相談①</p> <p>第2回：学校における教育相談②</p> <p>第3回：心理アセスメント①</p> <p>第4回：心理アセスメント②</p> <p>第5回：心理アセスメント③</p> <p>第6回：軽度発達障害の理解と対応</p> <p>第7回：問題行動の理解と対応①－不登校</p> <p>第8回：問題行動の理解と対応②－非行</p> <p><u>第9回：問題行動の理解と対応③－いじめ</u></p> <p><u>第10回：カンファレンス</u></p> <p>第11回：カウンセリング①</p> <p>第12回：カウンセリング②</p> <p>第13回：子どもに有効な心理療法①</p> <p>第14回：子どもに有効な心理療法②</p> <p>第15回：まとめ</p>

【授業内容】

(第9回：問題行動の理解と対応③ーいじめ)

我が国におけるいじめ認知件数の推移及びいじめ傾向について各種データに基づき概観するとともに、「いじめ」が生まれるメカニズム及び対応の状況について説明する。

(第10回：カンファレンス)

「いじめ」が原因で不登校になった中学女子の事例に基づき、カンファレンス実習を行い、それぞれの立場で、どう問題に立ち向かっていけばよいかグループで検討する。なお、グループ内で、管理職役、生徒指導役、養護教諭役、担任役、担任外役、カウンセラー役に分かれて、討論に参加し、それぞれの立場から問題解決法について考えさせた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	教育臨床心理学演習
教員名（専門分野）	藤井 義久（学校心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他 （コースによって選択／選択必修）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
単位数・受講者数	1 単位 15 名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第 1 回：臨床心理学とは</p> <p>第 2 回：不登校問題の理解と対応①</p> <p>第 3 回：不登校問題の理解と対応②</p> <p>第 4 回：不登校問題の理解と対応③</p> <p>第 5 回：<u>いじめ問題の理解と対応①</u></p> <p>第 6 回：<u>いじめ問題の理解と対応②</u></p> <p>第 7 回：<u>いじめ問題の理解と対応③</u></p> <p>第 8 回：<u>学校現場で行われている「心の授業」の現状と課題</u></p> <p>第 9 回：<u>「心の授業」指導案の作成方法</u></p> <p>第 10 回：<u>「心の授業」指導案発表会</u></p> <p>第 11 回：<u>「心の授業」の実際</u></p> <p>第 12 回：<u>「心の授業」模擬授業①</u></p> <p>第 13 回：<u>「心の授業」模擬授業②</u></p> <p>第 14 回：<u>「心の授業」模擬授業③</u></p> <p>第 15 回：まとめ</p>

【授業内容】

(第5回－第7回：いじめ問題の理解と対応)

我が国と諸外国におけるいじめ問題の現状について、各種データ、文献、視聴覚教材に基づき、理解する。特に、諸外国におけるいじめの現状については、日本以上に深刻な状況にあると言われている韓国の「いじめ」の実態及びいじめ撲滅に向けた取り組みに関して100日間にわたり記録したドキュメント映像を見せ、それに基づいて講義及びディスカッションを行った。また、実際はいじめ問題に対する対処能力を高めるために、「いじめ」に関する実際の事例を提示し、その事例に基づき、どういじめ問題を解決していけばよいか、グループごとに検討させることも行った。

(第8回－第14回：心の授業)

「いじめ」は起きてからでは遅すぎる、起きる前に未然に予防することが大切という観点から、「心の授業」を通して、「いじめ」をしない児童生徒の育成、「いじめ」が起きない学級風土の構築を目標に、「いじめ」防止教育の理論と実際について、指導案の作成及び模擬授業を通して、いじめ防止に向けた「心の授業」実践能力の向上を目指した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	心理学実習（後期）
教員名（専門分野）	藤井 義久（学校心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他 （コースによって選択／必修）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	1 単位 4 名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回：ガイダンス</p> <p>第 2 回：学校心理学分野に関する文献研究（1）、心理検査実習①</p> <p>第 3 回：学校心理学分野に関する文献研究（2）、心理検査実習②</p> <p>第 4 回：学校心理学分野に関する文献研究（3）、心理検査実習③</p> <p>第 5 回：4 年生卒論中間発表会参加</p> <p>第 6 回：大学院心理学セミナー参加</p> <p>第 7 回：<u>「いじめ」に関する文献研究（1）、心理検査実習④</u></p> <p>第 8 回：<u>「いじめ」に関する文献研究（2）、心理検査実習⑤</u></p> <p>第 9 回：<u>「いじめ」に関する予備調査項目の検討、心理検査実習④</u></p> <p>第 10 回：<u>KJ 法による予備調査結果の整理、心理検査実習⑤</u></p> <p>第 11 回：<u>いじめ調査実施項目の検討、心理検査実習⑥</u></p> <p>第 12 回：<u>いじめ調査の結果分析（1）、心理検査実習⑦</u></p> <p>第 13 回：<u>いじめ調査の結果分析（2）、心理検査実習⑧</u></p> <p>第 14 回：<u>いじめ調査結果の整理及び解釈、心理検査実習⑨</u></p> <p>第 15 回：<u>いじめ調査結果報告会（プレゼンテーション）</u></p>

【授業内容】

(第7回－第8回：「いじめ」に関する文献研究①～③)

「いじめ」の現状及び解決策の観点から調査研究を行った内外の論文を受講生各自1編ずつ持ち寄り、その論文購読を通して、「いじめ」問題を研究していく際の基礎的知識及び先行研究の現状、調査実施及び分析の方法について学ぶ。

(第9回－第10回：「いじめ」に関する予備調査の検討及び結果整理)

我が国におけるいじめ問題の現状及び解決策を探っていくために、まず自由記述調査による予備調査を実施し、本調査に向けた項目収集の手法について学ぶ。

(第11回－第14回：いじめ調査の実施及び結果分析・整理)

いじめ調査を実施し、その結果をどう整理し、まとめるか統計的商法の学習も含みながら、いじめ問題の現状と課題及び解決策について受講生全員で検討する。

(第15回：いじめ調査結果報告会)

「いじめ」に関する内外の文献研究及び調査分析によって明らかになったことをもとに、我が国における「いじめ問題」の現状と課題及び解決策について、受講生1人1人がパワーポイントを用いて発表する。

【授業内容】

8：学校事故の賠償と防止

大津のいじめ事件を受けて文科省が行った「いじめ緊急調査」のデータおよび新聞報道を踏まえて、学校側の法的責任などについて受講生と理解を深めた。

【授業内容】

第9回 いじめ問題の理解と対応

- ・いじめ問題の現状
- ・学習指導要領が定める「児童生徒相互の好ましい人間関係づくり」
- ・児童生徒間のトラブルの水準
- ・いじめの定義
- ・ストレスモデルによるいじめの理解
- ・学習理論モデルによるいじめの理解
- ・いじめる側・いじめられる側・取り巻く児童生徒・保護者の心理
- ・早期発見の方法
- ・いじめる側・いじめられる側・取り巻く児童生徒・保護者それぞれへの対応
- ・学校の取組の課題

第10回 不登校問題と生徒指導上の諸問題との関連

- ・不登校といじめ問題の関連

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導（後期）
教員名（専門分野）	山本 奨（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談、進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 140名
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 3・4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 生徒指導の定義</p> <p>第2回 児童生徒の理解と指導方策の選択</p> <p>第3回 適応要因</p> <p>第4回 自我機能</p> <p>第5回 情動に焦点化した対処行動</p> <p>第6回 解決に焦点化した対処行動</p> <p>第7回 傾聴と伝え返し</p> <p>第8回 対人支援の基本的態度</p> <p>第9回 <u>いじめ問題の理解と対応</u></p> <p>第10回 <u>不登校問題と生徒指導上の諸問題との関連</u></p> <p>第11回 不登校問題の現状</p> <p>第12回 児童生徒の不登校状態</p> <p>第13回 不登校児童生徒に対する支援方法</p> <p>第14回 各不登校状態に有効な支援方法</p> <p>第15回 生徒指導の課題</p>

【授業内容】

第9回 いじめ問題の理解と対応

- ・いじめ問題の現状
- ・学習指導要領が定める「児童生徒相互の好ましい人間関係づくり」
- ・児童生徒間のトラブルの水準
- ・いじめの定義
- ・ストレスモデルによるいじめの理解
- ・学習理論モデルによるいじめの理解
- ・いじめる側・いじめられる側・取り巻く児童生徒・保護者の心理
- ・早期発見の方法
- ・いじめる側・いじめられる側・取り巻く児童生徒・保護者それぞれへの対応
- ・学校の取組の課題

第10回 不登校問題と生徒指導上の諸問題との関連

- ・不登校といじめ問題の関連

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	教育臨床研究 I
教員名（専門分野）	山本 奨（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2・3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 教育臨床上の課題</p> <p>第2回 不登校の理解と対応1</p> <p>第3回 不登校の理解と対応2</p> <p>第4回 不登校の理解と対応3</p> <p><u>第5回 いじめ・非行の理解と対応1</u></p> <p><u>第6回 いじめ・非行の理解と対応2</u></p> <p><u>第7回 いじめ・非行の理解と対応3</u></p> <p>第8回 発達上の課題1</p> <p>第9回 発達上の課題2</p> <p>第10回 発達上の課題3</p> <p>第11回 キャリア教育・心理教育1</p> <p>第12回 キャリア教育・心理教育2</p> <p>第13回 キャリア教育・心理教育3</p> <p>第14回 教師の資質向上のためのスキル1</p> <p>第15回 教師の資質向上のためのスキル2</p>

【授業内容】

第5回 いじめ・非行の理解と対応1

いじめの「被害」児童生徒の支援に関する検討と演習

第6回 いじめ・非行の理解と対応2

いじめの「加害」児童生徒の支援に関する検討と演習

第7回 いじめ・非行の理解と対応3

いじめの未然防止に関する検討と演習

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	教育臨床研究Ⅱ
教員名（専門分野）	山本 奨（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2・3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第1回 教育臨床上の課題 第2回 不登校の理解と対応1 第3回 不登校の理解と対応2 第4回 不登校の理解と対応3 第5回 <u>いじめ・非行の理解と対応1</u> 第6回 <u>いじめ・非行の理解と対応2</u> 第7回 <u>いじめ・非行の理解と対応3</u> 第8回 発達上の課題1 第9回 発達上の課題2 第10回 発達上の課題3 第11回 キャリア教育・心理教育1 第12回 キャリア教育・心理教育2 第13回 キャリア教育・心理教育3 第14回 教師の資質向上のためのスキル1 第15回 教師の資質向上のためのスキル2

【授業内容】

第5回 いじめ・非行の理解と対応1

いじめの「被害」児童生徒の支援に関する検討と演習

第6回 いじめ・非行の理解と対応2

いじめの「加害」児童生徒の支援に関する検討と演習

第7回 いじめ・非行の理解と対応3

いじめの未然防止に関する検討と演習

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東北大学・教育学部）

授業科目名	教育相談
教員名（専門分野）	安保 英勇（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目 第四欄 生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 70名
対象課程・対象学年	学部 2年生以上対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 問題行動・不適応行動(1)：非行の動向 3. 問題行動・不適応行動(2)：心理的不適応の動向① 4. 問題行動・不適応行動(3)：心理的不適応の動向② 5. 問題行動・不適応行動(4)：心理的不適応の動向③ 6. 問題行動・不適応行動(4)：心理的不適応の動向④ 7. 問題行動・不適応行動(5)：問題行動・不適応行動の要因 8. 問題行動・不適応行動(6)：指導上の留意点 9. 問題行動・不適応行動とその対応：不登校① 10. 問題行動・不適応行動とその対応：不登校② 11. <u>問題行動・不適応行動とその対応：いじめ①</u> 12. <u>問題行動・不適応行動とその対応：いじめ②</u> 13. 問題行動・不適応行動とその対応：発達障害 14. 問題行動・不適応行動とその対応：スクールカウンセラー 15. 試験

【授業内容】

第 11 回 12 回 問題行動・不適応行動とその対応：いじめ

以下の内容についての講義。いじめの現状、いじめの定義、いじめの 2 次被害、いじめの早期発見のポイント、いじめの態様、いじめへの対応、いじめの予防。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東北大学・教育学部）

授業科目名	教育実践論講義 I（教育実践の教育経営研究）
教員名（専門分野）	小泉 祥一（教育実践論）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目 ・特別活動の指導法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 72 名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1 教育目標、教育課程、指導計画、授業形態、学習集団、教授組織、学級経営等、授業の成立に関わる経営条件について検討、吟味する。</p> <p>① 教育目標の設定と具体化過程、目標管理 ② 学力と生きる力、学習意欲 ③ 教育課程編成と指導計画 ④ 教育課程編成の経営過程と地域性 ⑤ 授業構成要素と経営条件 ⑥ 学力評価とカリキュラム評価 ⑦ ティーム・ティーチング、学習の個別化と個性化 ⑧ 学級経営 ー学級集団と個人の発展段階別指導モデルー ⑨ 学校と家庭、地域社会の連携 ー近所共同体づくりー ⑩ 教員評価と学校評価</p> <p><u>2 いじめ、不登校・「登校拒否」、非行、自殺などの教育病理現象・事例に対する教育経営学的考察を通して、それらの生起する原因や教育実践のあり方を吟味する。</u></p>

【授業内容】

2 いじめ、不登校・「登校拒否」、非行、自殺などの教育病理現象・事例に対する教育経営学的考察を通して、それらの生起する原因や教育実践のあり方を吟味する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東北大学・教育学部）

授業科目名	教育方法・技術論（教育方法の理論的実践的研究）
教員名（専門分野）	小泉 祥一（教育実践論）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
単位数・受講者数	2単位 ・ 32名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実践における子ども理解 2 生きる力と学力 3 教育内容と教材 4 学習指導案の構想 5 学習方法、学習形態と学習規律 6 教育評価 7 情報活用能力とコンピュータ利用授業 <u>8 生徒指導</u> 9 学級経営と子どもの自治活動 10 学習指導案の作成方法

【授業内容】

(8 生徒指導)

大津市における中学生いじめ事件等を事例としていじめの本質、原因や指導方法について検討する。

最終レポートの選択必修課題として、いじめについてのレポートを課した。

【授業内容】

(第8回：生徒指導問題の実際(1))

日本におけるいじめ問題について、定義および統計資料から、いじめの現状について知る。また、いじめの生じる対人関係や構造について学ぶ。

(第9回：生徒指導問題の実際(2))

ネットいじめ等、現代のいじめの特徴について知り、加害者への対応、被害者への対応および学級への対応について学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（宮城教育大学・教育学部）

授業科目名	教育の方法・技術 d
教員名（専門分野）	田端 健人（学校教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
単位数・受講者数	2単位 ・ 100名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. イン트로ダクション 2. 学級崩壊（1）—幾つかの事例 3. 学級崩壊（2）—失敗ケースと回復ストーリー 4. 学級崩壊（3）—回復のためのエッセンス 5. 学級通信（1）—「私の学級通信 第1号」作成 6. 学級通信（2）—相互鑑賞 7. ゲストティーチャーによる「私の教育方法と技術」 8. プレゼンテーションの技術（1） 9. プレゼンテーションの技術（2） 10. 使ってみよう、電子黒板 <u>11. いじめ（1）—幾つかの事例</u> <u>12. いじめ（2）—失敗ケースと回復ストーリー</u> 13. 軽度発達障害の子どもを含めた学級づくり（1） 14. 軽度発達障害の子どもを含めた学級づくり（2） 15. まとめ—ここまでの学びを授業づくりに活かす

【授業内容】

(1 1. いじめ (1) —幾つかの事例)

いじめ研究のなかから基本的な知見、例えば、いじめの定義 (複数)、いじめの 4 層構造 (森田洋司)、市民論理と群れの論理 (内藤朝雄) などを紹介する。

その上で、幾つかの事例を紹介し、対応策を考える。事例は、比較的軽度のケースと深刻化したケース、被害者が特定のケースと不特定のケース、回復したケースと解決できなかったケースなど、多様性をもたせている。

授業の終わりには、受講生に感じ考えたことを小レポートさせる。

(1 2. いじめ (2) —失敗ケースと回復ストーリー)

上記 1 1 回の最後の小レポートの中から、重要な気づきがうかがえるもの、疑問を投げかけているものなどをとりあげ、フィードバックする。

「あなたが学級担任ならば、どう対応する？」というテーマで、実際に小学校で起きた軽いいじめ場面を提示し、受講生各自に、自分ならばという想定のもとでの対応、その対応による子どもたちのリアクションを想定させ、回復ストーリーを考えさせる。

その上で、実際の事例の回復経過を紹介し、自分の対応策や想定との違いを考えさせる。

授業の終わりには、受講生に小レポートを課す。

【授業内容】

(2. 教育現場における今日的な諸問題)

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)から、「いじめ」「不登校」「暴力行為」の統計数値を紹介し、「いじめ」については、学校種や学年別の発生率、発見者として多くあげられる人物が誰であり、いじめられている子どもが誰に最も相談するかなどを確認する。このことによって、学級担任の意義と責任の重さを考える。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	生涯学習論Ⅲ—教育法制と教育人権
教員名（専門分野）	佐藤 修司（教育法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 130名
対象課程・対象学年	学部 1～2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ul style="list-style-type: none"> ①教育法制・教育人権に関する基礎 ②戦前の教育法制：教育勅語体制 ③戦後の教育法制：戦後教育改革 ④戦後の教育法制：現在まで ⑤教育課程法制：教育権論と教育基本法 ⑥教育課程法制：教科書制度と学習指導要領 ⑦子どもの権利：子どもの権利条約 ⑧子どもの権利：校則を中心に ⑨親の権利：親の教育権、児童虐待 ⑩体罰・懲戒：法制度と歴史 ⑪体罰・懲戒：実態と対策 ⑫<u>少年非行：少年法と児童福祉法</u> ⑬<u>いじめ・学校事故：法制度と歴史</u> ⑭<u>いじめ・学校事故：実態と対策</u> ⑮教育評価制度：指導要録、調査書・内申書

【授業内容】

⑫少年非行

- 少年非行の戦後の歴史・推移
- 少年非行の実態：生徒間暴力・対教師暴力等も含めて
- 少年非行への対処：家庭裁判所、家裁調査官、少年鑑別所、少年院、児童自立支援施設等
- 少年法の改正などの状況

⑬⑭いじめ・学校事故

- 学校事故の現状
- 学校の安全保持義務の内容
- いじめの歴史と現状：いじめへの対策
- いじめのメカニズム
- いじめへの対処
- いじめに関する意見や体験についての授業内レポートの作成
2回目に数人に発表してもらう

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	教育政策論演習
教員名（専門分野）	佐藤 修司（教育法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 3名
対象課程・対象学年	学部 2～4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション <u>②大津のいじめ自殺事件について</u> ③大震災と教育 ④子ども虐待 ⑤環境教育 ⑥「地域主権」と自治体教育改革 ⑦歴史教科書問題 ⑧グローバリズムと教育実践 ⑨観点別評価について ⑩「子ども・子育て新システム」について ⑪若者と貧困・就活・仕事 ⑫教員人事評価について ⑬新指導要領と授業づくり ⑭子ども・若者の不安について ⑮学力と学力テスト

【授業内容】

②大津いじめ自殺事件

「いじめ暴力の根絶を」

「いじめ自殺事件に見る現代の子どもの局面」

「中学校の保健室から見たいじめ」

「いじめ事件と教育の危機」

の四つの論考をもとにしながら、いじめに関する検討・討議を行った。

【授業内容】

いじめの定義、いじめの内容（統計を含む）、いじめが子どもに及ぼす影響、文部科学省のスタンス、県教育委員会の取り組み例、いじめへの対処の基本について講義している。また、受講生に対して、いじめに関わる子どもたちへのメッセージという形態で作文（600字）させている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	生徒の理解と指導
教員名（専門分野）	清水 貴裕（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位・ 80名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 生徒指導とは 3. 子どもの発達と自我形成（1） 4. 子どもの発達と自我形成（2） 5. 子どもの問題行動とは 6. <u>問題行動の理解（1）反社会的行動</u> 7. 問題行動の理解（2）非社会的行動 8. 子どもを取り巻く環境 9. 生徒理解の方法（1） 10. 生徒理解の方法（2） 11. 学級集団と学級経営（1） 12. 学級集団と学級経営（2） 13. 進路指導 14. 生徒指導における学校・家庭・地域の連携 15. まとめ

【授業内容】

第6回 問題行動の理解（1）反社会的行動

学校における反社会的問題行動のひとつとしていじめを取り上げている。

内容：

- ・ 文部科学省の統計を元にした，現在のいじめの実態についての説明
- ・ いじめの定義の変遷についての解説
- ・ 現在のいじめの特徴といじめの四層構造についての説明
- ・ いじめ加害者および被害者の心理
- ・ 学級でのいじめの予防的取り組みについての説明

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	児童の理解と指導
教員名（専門分野）	清水 貴裕（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 90名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・生徒指導とは 2. 児童理解の方法 3. 児童の理解を歪ませる要因 4. 低学年の子どもの理解と対応 5. 中学年の子どもの理解と対応 6. 高学年の子どもの理解と対応 7. 児童の問題行動の理解と対応（1） 8. <u>児童の問題行動の理解と対応（2）</u> 9. 児童の問題行動の理解と対応（3） 10. 学級経営と生徒指導（1）学級崩壊 11. 学級経営と生徒指導（2）学級担任の仕事 12. 生徒指導に生かせる技法（1） 13. 生徒指導に生かせる技法（2） 14. 学校・家庭・地域の連携 15. まとめ 16. 試験

【授業内容】

第8回 児童の問題行動の理解と対応（2）

小学校における問題行動のひとつとしていじめを取り上げている。

内容：

- ・ 文部科学省の統計を元にした，現在のいじめの実態についての説明
- ・ いじめの定義の変遷についての解説
- ・ 小学生のいじめの特徴についての解説
- ・ 教師のかかわりと児童の規範意識の関係についての説明
- ・ いじめの擬態による発見，線引きの難しさについての説明
- ・ 学校，学級でのいじめ予防の取り組みについての紹介

【授業内容】

- ⑬ なぜいじめは起こるか
 - いじめの現状報告
 - いじめの構造分析
 - いじめの事例研究
 - いじめのケーススタディ
 - 演習及び協議

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学）

授業科目名	教職発展演習
教員名（専門分野）	井門 正美（教科教育学講座）※代表
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 33名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 学部3年生
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>【授業の概要】 授業づくり、学級づくりについての実際の学校現場での知見を学び、現職教員の指導を受けながら、受講者間でのグループ討議、ワークショップ、体験的学習・ゲーミング・シミュレーション型授業等に取り組む。</p> <p>【授業の進行予定・進め方】</p> <p>①10月5日(金) 教員としての実践的知識・技能・態度の概説</p> <p>②10月19日(金) 学級づくり①：出会い</p> <p>③10月26日(金) 学級づくり②：ルールづくりとその定着</p> <p>④11月2日(金) 学級づくり③：組織づくり</p> <p>⑤11月9日(金) 授業づくり①：授業で勝負</p> <p>⑥11月16日(金) 生徒指導①：生徒指導って難しい？</p> <p>⑦11月30日(金) 授業づくり②：授業づくりのポイントを探ろう</p> <p><u>⑧12月7日(金) 生徒指導②：いじめ問題に向き合う</u></p> <p>⑨12月14日(金) 授業づくり③：私の授業経験から</p> <p>⑩12月21日(金) 生徒指導③：授業における生徒指導</p> <p><u>⑪1月11日(金) 生徒指導④：いじめへの対応協議</u></p> <p><u>⑫1月25日(金) 生徒指導⑤：いじめ事案の係る学年会議実習</u></p> <p>⑬2月1日(金) 学級づくり④：私の学級づくり演習</p> <p>⑭2月15日(金) 全体発表会：</p> <p>⑮レポート課題</p>

【授業内容】

- ⑧ いじめ問題に向き合う
 - 学校におけるいじめの現状及び実例
 - 子どもの発するサインを見つける
 - いじめがおきたときの教師の対応
 - 実例から学ぶー演習とグループワーク
- ⑪、⑫ いじめが起きたときの教師集団の対応
 - いじめが起きたときのロールプレイ
 - 役割分担、立場別に主張内容を整理
 - 学年部会での指導方針の協議

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	公民科内容学
教員名（専門分野）	井門 正美（学校教育学、社会科教育学、社会システム論）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 24名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2-4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>オリエンテーション</u> 2. <u>いじめ事件・裁判事例発表 1</u> 3. <u>いじめ事件・裁判事例発表 2</u> 4. <u>いじめと法</u> 5. <u>いじめ事件・裁判事例調査</u> 6. <u>いじめ事件・裁判事例調査発表 1</u> 7. <u>いじめ事件・裁判事例調査発表 2</u> 8. <u>テーマ別班による調べ学習 1</u> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>いじめ事件の総合的調査報告班</u> ② <u>ネットいじめ・学校裏サイトの調査報告班</u> ③ <u>いじめ防止条例の調査報告班</u> ④ <u>いじめ防止プログラムの調査報告班（国内外）</u> ⑤ <u>模擬裁判実施班（いじめ PTSD 事件調査と模擬裁判）</u> 9. <u>テーマ別班による調べ学習 2</u> 10. <u>テーマ別班による調べ学習 3</u> 11. <u>弁護士による講義（いじめ事件と裁判・審判）</u> 12. <u>テーマ別班による調べ学習発表 1</u> 13. <u>テーマ別班による調べ学習発表 2</u> 14. <u>ネット会社社員による講義（いじめとネット・学校裏サイト）</u> 15. <u>いじめ模擬職員会議（模擬裁判・シンポジウムに向けて）</u>

【授業内容】

1. オリエンテーション

高校の公民科は、受験のための科目となり、教科書や参考書を覚えさせるだけで、高校生に現実の社会問題を考察させ、その問題の解決に立ち向かわせようとする科目となっていない。また、教育現場自体が教科書を教えることに専念し、学びの台場である学校や児童生徒自体の抱える問題に真摯に向き合っていない。こうした現状に鑑み、本講義では、いじめ問題に焦点化し、この問題を追及する学習を通して、公民科の指導力の基礎を養う。

2. いじめ事件・裁判事例発表 1

各自がいじめ事件・裁判の中から1つの事例を選んで考究したことをプレゼンテーションする。前半の発表者。

3. いじめ事件・裁判事例発表 2

同上。後半の発表者。

4. いじめと法

いじめ事件・裁判について「児童生徒のいじめ自殺訴訟の現状—因果関係を中心に—」（横田昌紀著、『判例タイムズNo.1358 2012.1.1』）を取り上げて、いじめと法について考究する。

5. いじめ事件・裁判事例調査

前記2と3の学習を更に追究して、スライドにまとめる作業を行う。

6. いじめ事件・裁判事例調査発表 1

7. いじめ事件・裁判事例調査発表 2

8. テーマ別班による調べ学習 1

- ①いじめ事件の総合的調査報告班
- ②ネットいじめ・学校裏サイトの調査報告班
- ③いじめ防止条例の調査報告班
- ④いじめ防止プログラムの調査報告班（国内外）
- ⑤模擬裁判実施班（いじめ PTSD 事件調査と模擬裁判）

9. テーマ別班による調べ学習 2

8の継続

10. テーマ別班による調べ学習 3

8. 9の継続。

11. 弁護士による講義（いじめ事件と裁判・審判）

秋田弁護士会の弁護士によるいじめ事件（民事、少年審判）についての講義と模擬裁判シナリオ構想の紹介。

12. テーマ別班による調べ学習発表

8－10の調べ学習を各班がスライドでプレゼンテーションする。意見交換。

13. テーマ別班による調べ学習発表の遂行

3月3日の研究発表を想定し、完成度の高いスライドに仕上げる。

14. ネット会社社員による講義（いじめとネット・学校裏サイト）

ネット会社社員による「ネットトラブルの実態とモラル指導の重要性」についての講義。

15. いじめ模擬職員会議（模擬裁判・シンポジウムに向けて）

いじめ発生の報告を受けての職員会議を模擬的に再現し、いじめ問題の適切な対処策を考える。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	情報教育カリキュラム論
教員名（専門分野）	姫野完治（教師学・教育方法学・教育工学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	1 単位 ・ 80 名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2・3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p><u>①情報化社会の現状と子ども</u>：情報教育の概論</p> <p>②情報化の便利さと保護：情報の伝達と秘匿のバランス</p> <p><u>③ネット社会の子どもたち</u>：大人が追いつけない現状を探る</p> <p>④情報化社会を賢く生きる子どもを育てるために①：メディアとデザイン</p> <p>⑤情報化社会を賢く生きる子どもを育てるために②：日常生活と情報教育</p> <p><u>⑥学校・家庭・地域の連携と役割①</u>：子どもや保護者への情報モラル指導</p> <p><u>⑦学校・家庭・地域の連携と役割②</u>：みんなの情報モラル指導</p>

【授業内容】

本授業では、情報化に伴う情報教育の意義や機能、情報教育のカリキュラム開発、授業実践方法について講義と演習を行っている。

いじめに関する内容としては、以下のような内容を扱っている。

- ・携帯電話やインターネットによるネットいじめ、学校裏サイトの探索
- ・新たに進展してきているスマートフォン、中でも LINE を媒介とするいじめの実態把握
- ・保護者向けの説明会や情報モラル指導のあり方

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山形大学・地域教育文化学部）

授業科目名	教育相談
教員名（専門分野）	宮崎 昭（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職 4 欄下段：生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 159 名
対象課程・対象学年	学部 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育の教育課程における「生徒指導」と「教育相談」の位置づけ 2 児童生徒の理解を深めるには（実態把握；アセスメント） 3 「不登校」の理解と対応 4 <u>「いじめ」の理解と対応</u> 5 青年期の葛藤と危機 6 ストレスマネジメント教育 7 <u>人間関係を育てる「社会性と情動の学習」</u> 8 実地指導講師花輪先生 発達障害児の理解と対応 9 実地指導講師花輪先生 特別支援教育の進め方 10 <u>セクシャリティとエイズ教育</u> 11 キャリア教育の進め方 12 <u>教育相談の組織運営と年間計画の作成の仕方</u> 13 ウンセリングの進め方 14 保護者との連携をどのように行うか 15 年間指導計画の課題レポート返却と講評、修正

【授業内容】

第4回 いじめの理解と対応

1、演習

「朝早く、まだ数人しか登校していない中2のクラスで、掲示していた宮崎君の自画像の目に画鋸がさしてあると生徒が報告してきた。担任としてどう対処するか？」小グループで対策を話し合う。

2、いじめとは？

- (1) 文部科学省の定義
- (2) 「悪ふざけ」と「いじめ」の違い
- (3) いじめの種類

3、発生率

4、影響

- ・いじめた子ども
- ・いじめられた子ども

5、解決の方法（学校全体での人権教育の取り組みが必要）

- ・大人たちが、あらゆる「いじめ」に対して、すぐに、敏感に、継続的に対応する訓練をする
- ・子どもたちから、直接いじめに関する情報を集めること（大人の前ではいじめない）
- ・学校全体またはクラスで、「安全を守りいじめを許さない」明確なルールを確立し予防教育を行う
- ・特に運動場や食堂などの大人の目の行き届かない場所に、適当な大人を配置する。
- ・この問題に対する保護者の自覚と積極的な関与を促すようにする。

6、いじめられた子どもへの対応

- (1) 子どもの感情を肯定する
- (2) 状況とこれまでの経過を確かめる
- (3) 子どもの安全を確かめる：子どもが「安全だ」と感じるために何が必要か検討する。
- (4) 行動する：子どもに、どのように対応したらよいか教える
- (5) フォローアップ

7、いじめた子どもへの対応

- (1) 状況とこれまでの経過を確かめる
- (2) 自分の行動が「いじめ」だと気づいていない場合
- (3) 障害や困難から、うっかり「いじめ」の行動をとってしまった場合
- (4) わざと「いじめ」の行動を行う場合
- (5) フォローアップ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山形大学・地域教育文化学部）

授業科目名	教育相談
教員名（専門分野）	奥野 誠一（教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職 4 欄下段：生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 50 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校カウンセリングとは何か 2 予防・開発的カウンセリングの理論と方法①（構成的グループエンカウンター） 3 予防・開発的カウンセリングの理論と方法②（ソーシャルスキル教育） 4 カウンセリングの基本①（傾聴の構成要素） 5 カウンセリングの基本②（傾聴技法練習） 6 集団不適應の理解と対応 7 不登校の理解と対応①（理解） 8 不登校の理解と対応②（対応） 9 <u>いじめの理解と対応</u> 10 第 1 回事例研究相互評価 11 第 1 回相互評価フィードバック、発達障害の理解と対応①（理解） 12 発達障害の理解と対応②（対応） 13 保護者の理解と対応 14 第 2 回事例研究相互評価 15 第 2 回相互評価フィードバックとまとめ

【授業内容】

第9回 いじめの理解と対応

1.いじめの定義と特徴

1-1.いじめとは

1-2.いじめの特徴

1-3.いじめの影響

2.いじめ問題への対応

2-1.被害者側に立った対応

2-2.加害者への対応

2-3.集団への対応

いじめの被害者、加害者、傍観者、観衆などの立場からの経験談の手記や新聞記事を読ませてイメージを膨らませる。その後、グループで、架空事例を用いて被害者および加害者双方の立場になった上でどんな気持ちでいるかを想像させる。

これらと合わせながら、いじめの特徴や対応について講義することで現実感を持ち、具体的に対応策を考えることを促進している。

第2回 予防・開発的カウンセリングの理論と方法①（構成的グループエンカウンター）

第3回 予防・開発的カウンセリングの理論と方法②（ソーシャルスキル教育）

直接いじめについて扱ったものではないが、何か起こってから対応するのではなく、人間関係の形成は学習の基礎になり、多少のトラブルを自己解決することにもつながるとして、第2回および第3回において、構成的グループエンカウンターおよびソーシャルスキル教育といった心理教育的方法について、ロールプレイングを交えながら講義し、ふだんの教育活動の重要性について考えさせている。

第4回 カウンセリングの基本①（傾聴の構成要素）

第5回 カウンセリングの基本②（傾聴技法練習）

上記と同様の発想のもと、「子どもの感情をきくこと、子どもを否定しないで話をきく」練習をすること、「話をじっくりきいてもらうことがどんな効果があるか」を体感するために、傾聴技法について、ロールプレイングを交えながら講義し、ふだんの教育活動の中での態度の重要性について考えさせている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山形大学・地域教育文化学部）

授業科目名	生徒指導・進路指導
教員名（専門分野）	松崎 学（教育社会心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職4欄下段：生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 50名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1部 学校教育と生徒指導</p> <p><u>1. 歴史的変遷と現代の課題</u></p> <p>2. 学校教育と生徒指導</p> <p>第2部 見直しへ向けてのいくつかの視点</p> <p><u>3. 学校心理学における心理教育的援助サービス</u></p> <p><u>4. オールビーの予防等式</u></p> <p>5. 問題行動の予防と解決のためのアプローチ</p> <p><u>6. アドラー心理学</u></p> <p>第3部 学級集団の理解と指導</p> <p><u>7. 学級集団の理解</u></p> <p><u>8. 学級集団の人間関係の変革</u></p> <p>第4部 進路指導</p> <p>9. 進路指導</p>

【授業内容】

1. 歴史の変遷と現代の課題（問題提起）

特に中学校の歴史の変遷においては、登校拒否・校内暴力に続いて、昭和 50 年代後半ないしは 60 年代から「いじめ」が顕在化したことを伝え、いわゆる問題行動が、中学校に集中している現状が続いていること、学校の歴史の変遷とともに子どもがストレス症状を「登校拒否」…「暴力行為」…「いじめ」…「不登校」などと表現し続けていること、つまり、学校の抱える問題が解決に向かえていない現状である、という問題提起として紹介。

3. 学校心理学における心理教育的援助サービス（整理の視点）

学校心理学における 3 段階の援助サービスにおいて、「いじめ」は三次的援助サービスに位置づけられることを確認。その一方で、一次的・二次的援助サービスにおける日常の教師のかかわりには玉石混淆状態がみられ、そこで新たな問題の火種が創られ、三次的援助サービスが必要な事態となっている可能性とともに、一次的・二次的援助サービスの適正化こそが、生徒指導の課題であることを強調。

4. オールビーの予防等式（整理の視点）

上述した、一次的・二次的援助サービスにおける玉石混淆状態において、不要なストレスを教師が与えることとなっており、それがオールビーの予防等式の分子に位置づけられているので、結果的に問題発生率をアップさせていることを確認。

6. アドラー心理学（システム変革に向けて）

アドラー心理学でいうところの、不健康なクラスにおいて、「賞罰」と「競争」を中心とした教育がその現状を維持している悪循環図を学生に考えさせ、その結末としての症状が「不登校」「いじめ」「自殺」などであることを確認。

“コミュニケーションそのものがシステムをつくる”というシステム論に基づき、“ほめる・叱る”に替わるコミュニケーションを教師が用いることで、タテの関係性ではなく、ヨコの関係性を創出することができること、そのシステム変革が「いじめ」「不登校」などの予防的アプローチになるだけでなく開発的アプローチであること、生徒指導の目標である自己指導能力の育成を支援することができることを、特に STEP (Systematic Training for Effective Parenting: Dinkmeyer & McKay, 1976) の“ものの見方・考え方”とともに、“ほめる・叱る”に替わるコミュニケーション技法を学ぶ。

7. 学級集団の理解 8. 学級集団の人間関係の変革（学級集団での実際）

特に Q-U アンケートを用いて、自分の小学校時代を振り返りつつ、今度は自分が担任教師としてどんな学級づくりを進めるか、STEP 的アプローチを用いて民主的な学級づくりを実践している特定の教師の学級事例などを紹介している。

さらに、特定の公立小学校の、ほぼ全員の教師が STEP を学び、3 年間の積み上げの結果、Q-U 満足群出現率が高く（人間関係が良い状況で）、学力がアップ（NRT で ASS=54・57）し、発達障害の子どもも適応的で、子どもの自尊感情（本来感）も高いという状態を創出した学校事例を、教師個人の意識変革内容も含めたデータをもとに紹介している。

そのようなアプローチを通して、いじめ・不登校問題への予防だけでなく、発達障がい児に対してもユニバーサル・デザインとなり得る、教育のひとつの解を示したアプローチであることを伝えている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山形大学・地域教育文化学部）

授業科目名	生徒指導・進路指導
教員名（専門分野）	佐藤 宏平（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職4欄下段：生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 70名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：生徒指導・進路指導とは？</p> <p>第2回：思春期・青年期の発達課題と心理的不適応</p> <p>第3回：不登校問題を理解する枠組み</p> <p>第4回：不登校の種類と対応</p> <p>第5回：不登校支援の実際</p> <p><u>第6回：いじめの理解と対応</u></p> <p>第7回：発達障害の理解と対応</p> <p>第8回：虐待・神経症的問題の理解と対応</p> <p>第9回：非行問題の理解と対応</p> <p>第10回：その他の問題（学級崩壊・危機介入・）</p> <p>第11回：キャリアガイダンス</p> <p>第12回：予防的な学級経営のポイント</p> <p>第13回：構成的グループエンカウンターについて</p> <p>第14回：スクールカウンセリング制度とスクールカウンセラーの活用</p> <p>第15回：学校組織と生徒指導・進路指導</p>

【授業内容】

第6回 いじめの理解と対応

- ①いじめ問題の社会問題化のプロセスについて
- ②本邦におけるいじめ自殺
- ③欧米におけるいじめ問題に対する取り組み（ノルウェー・イギリス・アメリカを中心に）
- ④いじめの定義
- ⑤いじめ認知件数の推移（データの意味、読み方含む）
- ⑥現代のいじめの特徴（ネットによるいじめ含む）
- ⑦クラス内ステイタスといじめ
- ⑧いじめの四層構造論からみるいじめの対応のポイント

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福島大学・人間発達文化学類）

授業科目名	学校カウンセリング論
教員名（専門分野）	中野 明德
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 150名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 3～4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>【授業概要】</p> <p>(1) 学校現場におけるカウンセリングの意義を考える。</p> <p>(2) 今日の学校現場に多発している、不登校、いじめ、非行、軽度発達障害等の問題行動の心理を理解し、その対応を考える。</p> <p>(3) 実際の事例等を通して、学校現場の実態を知ると同時に、学校で必要なカウンセリングを理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>本授業計画は教育相談及び生徒指導の視点を含み構成されている。</p> <p>(1) カウンセリングの理論と技法 1</p> <p>(2) スクールカウンセラーの役割</p> <p>(3) カウンセリングの理論と技法 1</p> <p>(4) カウンセリングの理論と技法 2</p> <p>(5) コンサルテーションとコーディネーション</p> <p>(6) 開発的・予防的アプローチ</p> <p>(7) 不登校の心理と対応 1</p> <p>(8) 不登校の心理と対応 2</p> <p><u>(9) いじめの心理と対応 1</u></p> <p><u>(10) いじめの心理と対応 2</u></p> <p>(11) 非行の心理と対応</p> <p>(12) 軽度発達障害の心理と対応 1</p> <p>(13) 軽度発達障害の心理と対応 2</p> <p>(14) PTSD の心理と対応</p> <p>(15)総括</p>

【授業内容】

この授業はテキストとして、『新しい実践を創造する 学校カウンセリング入門』（国立大学教育実践研究関連センター協議会教育臨床部会（中野明德編集代表）東洋館出版）を用いて、学校臨床上の課題である不登校、いじめ、非行、発達障害等の現状と対処の方法を学ぶ。

さらに中野明德編『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版）から、実際の場면을提示して実際的な対処方法を検討する。いじめに関していえば、いじめられた生徒に対する場合といじめる生徒に対する場合の両方を検討する。また、メディア開発センターのDVD教材『教師の力量アップをめざして臨床編』を用いて、学部学生のために基礎的な力量をアップを目指している。